

クラシック音楽との出会いと私の青春時代

株式会社日税ビジネスサービス 代表取締役会長兼社長
吉田 雅俊



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第24回は、法人後援会員としてご支援くださっている株式会社日税ビジネスサービス 代表取締役会長兼社長の吉田雅俊様。ご両親の影響で邦楽に親しまれ、同時にクラシック音楽に出会い惹かれ親しまれた青春時代の思い出を綴っていただきました。

北海道留萌市出身の私は、小学4年生まで海産物製造業を営む家庭で育ちました。家族は父母共に邦楽の愛好家であり、私も35歳から宝生流能楽師に師事し、謡や仕舞い、能の舞台に立ちました。

そんな私ですが幼少期にカソリック系教会の付属幼稚園でクラシック音楽と出会い、特にトロイメライに心惹かれました。中学・高校時代は、音楽の時間やラジオでクラシック音楽に触れる程度でしたが、大学時代には、音楽喫茶や渋谷の名曲喫茶ライオンでのんびりとポピュラーなクラシック曲を聴き、多くの名曲に親しみました。

映画やテレビドラマ等で、クラシック音楽がBGMや挿入曲等に用いられていることに気づき、原曲探しをして改めてその楽曲を^{たの}娯



休日にご家族との時間や文化芸術に触れる時間を大切にされている

左：娘さんのお宅の庭で、お孫さんと／中：京都伏見稲荷にて／右：パリのモネ美術館にて

しむ遊びもしました。挿入曲では、特にキューブリック監督『2001年宇宙の旅』（この映画ではクラシック音楽が多数使用されている）の冒頭でのリヒャルト・シュトラウスの『ツァラトゥストラはかく語りき』や山田洋二監督の映画で流れるヴィヴァルディの『四季』～「秋」は印象的でした。

東京フィルハーモニー交響楽団との出会いは、会社の役員の妹さんが楽団員であったことから始まり、賛助会員を経て法人後援会員として現在に至ります。私は毎回受け取るチケットを社員に抽選で提供し、福利厚生の一環としています。私自身はあまりコンサートに行く機会がありませんが、この活動を通じて社員に文化的体験を提供できることに感謝しています。

吉田雅俊（よしだ・まさとし）／1947年北海道生まれ。東京都立大学 工学部機械工学科卒業。株式会社日税ホールディングス 代表取締役会長、株式会社日税ビジネスサービス、株式会社日税不動産情報センター、株式会社共栄会保険代行者、日税グループ各社、最高経営責任者（CEO）。公益財団法人経済同友会会員、新宿新都心ロータリークラブ元会長、国際ロータリー第2580地区2017～2018年度ガバナー、東大寺唯心会常務理事（東京支部長）、一般社団法人東京都立大学同窓会会長。